

要旨

デジタル絵本は、タブレット PC やスマートフォン等で読むことのできる絵本である。タブレット PC やスマートフォンを使用して読む絵本のため、これらに依存したり、視力が低下したりすることが懸念されているものの、今後、さらに電子化が進むことで、従来の紙絵本から、デジタル絵本に移っていく可能性もある。

そこで、本研究では、記憶定着の観点から紙絵本とデジタル絵本の比較実験を行い、現代に適したデジタル絵本の使用方法について示す。高槻市立図書館ミュージズ子ども分室が定期的に行っているおはなし回に参加した児童（0 歳～5 歳、合計 10 名）に対して紙絵本とデジタル絵本の読み聞かせを行い、それぞれの絵本の読み聞かせ後に並び替えテストを実施し、その結果からどちらの絵本の内容を子どもたちはよく記憶しているかを検証した。その結果、記憶定着に関しては、紙絵本とデジタル絵本で大きな差はみられなかったが、テストの回答時間の差から、理解のしやすさという点では、デジタル絵本のほうが優れていることが示された。物事を理解するのに時間がかかる子どもや、子どもの苦手分野に関しては、デジタル絵本を用いることで、子どもの理解を深めるサポートが可能であると考えられる。